

出席者 安松 秀、吉田 巖、大川原 和弘、中村 千帆
向井 正明、脇田 裕史、久下 洋之、平佐多 隆

1 校長あいさつ

2 令和5年度 学校経営計画の評価

3 意見聴取

《学校教育自己診断について》

○吉田委員

生徒支援の充実 いじめなど困っていることがあれば、真剣に対応してくれ 78%

学校教育自己診断 いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる 69%

⇒生徒と教員との数値に差があります。

⇒新しく来られた先生に危機管理マニュアルの周知が必要なのではないか。

⇒マニュアルに沿って行動できていない可能性が考えられる。

○安松委員

何か数値が変わる事実があったのか？

○教頭

教員の人数は少ないので、数人の回答の変化で大きく値が変動する。

今の状態では迅速に対応ができないと示されていると考えなければならない。

○安松委員

否定的な意見として、「授業を楽しくわかりやすい」「学校に特色がない」がある。

⇒授業内容についての意図などを生徒に説明する機会が必要だ。

⇒理解されれば数値が改善すると考えられる。

○校長

⇒来年度はこれまでと違う「総合的な探究の時間」を計画している。

○探究担当首席

⇒地域とのコラボレーションで、商品開発をする。

⇒実際にプレゼンをして商品化する。そして評価する。

○安松委員

他の学校にはない特色

⇒生徒が「特色はない」というのはなぜか。

⇒本当に他校と比較できているわけではない。

○吉田委員

「コースが将来に役立っている」が70%を超えている。コース選択は立派な特徴だ。

○教頭

⇒生徒は自分の学校だけが基準となっていて、他の学校を見る機会が少ない。

⇒生徒会の交流などが進められるよう検討したい。

《進路指導について》

○安松委員

国公立大学は何人挑戦しますか。

○進路指導主事

共通テストは23人受験、私学の共通テスト利用での受験が多い。

今年の国立大学受験者は2名（去年は5名）

《働き方改革について》

○中村委員

働き方改革を行っているが、保護者はどこまで求めてよいか？

部活動の指導を本当に遅くまでやってくれているが、逆に心配になってしまう。

⇒外部コーチなどは呼べないのか。

○校長

⇒本校は3名の外部コーチがいるが、予算の都合で少しずつしか広がらない。

⇒部活動は勤務か勤務じゃないかが曖昧なところがあり、難しい問題である。

○中村委員

中学校では、8時～17時の間しか電話ができないなど、教員を守る姿勢が強いので

⇒中学校と高校で違いがあり、ギャップを感じる。

保護者としては、先生の負担にはなってほしくないが、部活動は活発にしてほしい。

説明があれば保護者は納得すると思うが、ニュースなどで知ることが多い。

⇒心配になる。

《まとめ》

○安松委員

生徒たちの姿を見ると楽しそうにやっているように見える。

生徒指導、授業の楽しさの評価のギャップを感じる。

なぜそんな指導をするのかななどの説明が非常に重要である。

学校の考えを生徒が理解すれば、ポイントは変化するのではないか。

指導されている内容など交野高校が特異なことをしているわけではない。

生徒への伝え方などは、考えないといけないところがある。

授業が学校生活で一番大事だと、先生たちのアンケートから感じる。

⇒教員研修会などで課題を出し合う場所が必要だ。

○吉田委員

生徒と保護者の自由記述が学校の特色のヒントになっている。

何かしら対応ができることがあれば信頼へと繋がる。

○中村委員

説明が大切だと思われる。理由さえ納得できれば良い。

ルールはどこに行ってもあるもの。それをきちんと守る場所があることは良いことだ。

《交野高校に期待すること》

○吉田委員

生徒と向き合って、特色を作ってほしい。

○中村委員

素敵な思い出を作ってもらえれば良いと思う。